

「三重県工業研究所の津高等技術学校との一体整備を含む建替え再整備基本計画」の概要

工業研究所の2拠点における機能配置

(第1章 工業研究所の建替え再整備に向けたビジョン、第2章 工業研究所の2拠点の機能配置方針)

<背景・建替え再整備に向けたビジョン>

近年のDX(デジタルトランスフォーメーション)やCN(カーボンニュートラル)等の分野横断的な新しい産業ニーズへの対応、老朽化が著しい施設の抜本的改善が求められる中で、数十年後の将来を見据えた新たな工業研究所の機能強化や施設整備のビジョンを描く「三重県工業研究所の機能強化・施設整備にかかるビジョン」を策定。

<基礎的技術分野の支援機能の配置>

工業研究所の技術支援の基盤となる基礎的技術を6分野(①金属材料、②無機材料、③機械、④樹脂、⑤電気電子、⑥食品)に整理し、産業立地の状況や設備機器のバランス等にも留意し、「ものづくりの総合拠点(四日市市)(仮称)」、「本所・連携の総合拠点(津市)(仮称)」の2拠点の機能配置を行う。

工業研究所2拠点における支援機能の配置



※産業分野を問わず一般的な技術や品質管理(製品不具合・異物混入・変色・破損等)にかかる課題、生産技術等は両拠点で対応

<分野を横断する技術支援テーマ>

分野を横断する3つの技術支援テーマ(①GX・エネルギー、②生産技術、③リサイクル)と、支援展開先となる成長産業を2例(①次世代自動車、②ライフノベーション)設定する。



津高等技術学校との一体整備・他機関連携による機能強化 (第2章、第3章 津高等技術学校の役割と機能)

<一体整備や連携によって強化を図る支援機能>

- ① 技術・経営両面でのワンストップ総合的支援機能: 三重県産業支援センター(MIESC)や市町との連携、知財活用 など
- ② 共同研究の取組機能: 国・国立研究開発法人・公益財団法人等の事業や外部資金活用によるプロジェクト推進 など
- ③ 技術人材の育成機能: MIESC・大学・市町等との技術人材育成連携 - 四日市市や三重大学サテライト等(ものづくりの総合拠点(四日市市)(仮称))、津高等技術学校との人材育成交流(本所・連携の総合拠点(津市)(仮称)) など
- ④ 地域におけるオープンイノベーション・インキュベーションの促進機能: 起業・リスクリング・リカレント等の支援、産業振興にかかる知見や情報の集約・発信機能、地域の産業競争力の強化や課題解決、県の科学技術振興への貢献 など

- ◎必要な施設・設備: □一体運営(入居)に必要なスペース・施設、□交流・コワーキングスペース、□ホール(シンポジウム等開催)、□テストベッド(実運用に近い環境下での実証実験の施設設備) など
- ※将来的に必要な施設・設備の整備に備えてフレキシビリティを持った施設設計とすること

工業研究所と津高等技術学校の一体整備にかかる事業費・事業手法・スケジュール等

(第4章 一体整備、第5章 組織運営、第6章 施設管理、第7章 事業費、第8章 事業・整備手法、第9章 事業スケジュール、第10章 留意事項)

2拠点における土地利用と施設配置のパターン

- 2拠点敷地内の空き地活用や動線配置、幹線道路との接続・進入口の確保、近隣住宅地への配慮、事業費や工程等をふまえて総合的に検討し、それぞれ下記のパターンを基本として整備を進める。



ものづくりの総合拠点(四日市市)(仮称)



本所・連携の総合拠点(津市)(仮称)

概算事業費

- 総計: 約245億円(工業研究所:約143億円、津高等技術学校:約102億円) ※令和6年10月試算、税込み。
- 測量や土壌汚染対策等の調査費用、移転費用、試験機器の調達・セッティング含む開業準備費用等は含まない。

事業手法・整備手法

- 公設公営による従来方式を採用 ■ PPP/PFI方式との簡易なコスト比較・検討の結果をふまえ、2カ所で、建設・移転・解体を繰り返すローリング方式での複雑な工事が並行すること、工事が長期間となること等を総合的に考慮。

事業スケジュール

- 工期全体で約10年の見込み ■ R7~8年度:設計→①8~9年度:解体・建設着工→②12~13年度:新しい工業研究所施設の完成、移転 →③13年度:建設着工→④15~16年度:新しい津高等技術学校施設の完成、移転

建替え再整備における留意事項

- 再整備を行わない工業研究所の金属研究室(桑名市)・窯業研究室伊賀分室(伊賀市)の、新施設移転までの活用と、移転後の、津高等技術学校も含めた跡地・施設の利活用については、県有財産の管理・利活用方針に基づき、各地域の自治体・関係団体等の意見も十分ふまえつつ検討し、有効活用を図る。